

「今後の自動車事故被害者救済対策のあり方 に関する検討会」報告書 概要

今後の自動車事故被害者救済対策のあり方 報告書概要

検討の
背景

自動車事故被害者等からさらなる施策の充実を求める声をいただくとともに、社会保障制度の変化、介護者の高齢化等など、自動車事故被害者救済対策を取り巻く情勢の変化を踏まえ、さらに効果的、かつ、きめ細かい支援を実現するため、検討会を設置し、今後の取組の方向性を整理。

自動車事故被害者及びその家族からの要望

療護施設の充実

リハビリの機会
の確保介護者なき後
への備え

事故直後の支援

被害者救済対策の目指す方向

- 後遺障害の残った者が**治療やリハビリの機会の提供を安心して受けられる環境を整備**
- **介護者なき後**に対する不安や**事故直後**における不安の軽減を図るため、**安心できる支援策を具体化**

療護施設の充実

- 療護施設への待機患者の最小化
- 療護センターの老朽化対策の検討
- 療護施設のあり方の検討

リハビリの機会の確保等

- 療護施設退院後のリハビリ
- 脊髄損傷を負った場合におけるリハビリ
- 高次脳機能障害を負った場合におけるリハビリ
- 短期入院・入所のあり方の検討

介護者なき後への備え

- 生活の場の確保等に必要となる施策の検討

事故直後の支援

- 事故直後の被害者への情報提供の充実等

今後の自動車事故被害者救済対策のあり方 報告書概要

療護施設の充実

関東地方の療護施設で生じている待機患者の解消を図るべき

関東地方への小規模委託病床の拡充

療護センターの老朽化対策を講じるべき

真に必要な機能確保に努めるほか、最も経済的かつ効率的な方法による老朽化対策を実施

療護施設全体における空床の発生状況を踏まえた療護施設のあり方を整理するべき

療護施設全体の体制を維持するとともに、提供する「サービスの充実」に重きを置く方向

リハビリの機会確保等

脊髄損傷者が回復期の後、中長期間入院し、リハビリを受けられる病院の確保を進めるべき

脊髄を損傷し、重度後遺障害を負った方を中長期間受け入れる病院を選定・支援

維持期・慢性期において十分なリハビリテーションを受けられる場が少ない

リハビリに意欲的に取り組む協力病院を選定し、重点的に支援するとともに、情報提供を強化

高次脳機能障害者の自立訓練を支援して社会復帰を促進すべき

高次脳機能障害に対する十分な理解・知見を有し、自立訓練を提供している先駆的な事業者を試行的に支援し、効果的な支援策を検討

利用者が必要としている医療行為等への対応が可能な施設が限定的であることを踏まえた短期入所の利用促進策を検討すべき

重度後遺障害者の利用実績の多い施設を個別に調査・分析した上で、利用促進策を検討

今後の自動車事故被害者救済対策のあり方 報告書概要

介護者なき後への備え

介護者の高齢化等を踏まえ、「生活の場」の確保をさらに進めるべき

グループホーム等における厳しい人手不足の状況等を踏まえ、これまで以上に充実した支援策を講じることにより、自動車事故被害者の受入拡大に資する施策を検討

介護者なき後に至る前段階から地域で支えるネットワークの構築を支えるべき

ニーズに応じた相談先の紹介等につなげられるよう自治体等とのつながり強化を検討

事故直後の支援

事故被害者等の精神的ケアを図るとともに、情報提供の充実を図るべき

事故被害者等を対象とした精神的ケアや情報提供の充実を図ることを検討

今後留意すべき事項

① 障害福祉分野における技術革新への配慮

自動車事故被害者が安全・安心な障害福祉サービスの提供を継続して受けることができるよう、今後のICTにかかる技術革新の動向等に配慮し、必要な施策を検討することが適当

② 自動車事故被害者を巡る状況に対応した施策の継続検討

報告書で一定の方向性をまとめた事項についても、変化の速度を増している社会情勢の変化を踏まえて、不断の見直しを継続

③ 被害者救済対策の将来的な継続性・安定性を確保するための方策の検討

自動車事故対策勘定によって自動車事故被害者救済対策を実施するスキーム確立以降の状況変化を踏まえた同対策を安定的かつ継続的に実施するための方策を検討することが適当